

妻西中キャラ めにしちゃん

学び磨き鍛える

正しい判断力とたくましい実践力を
もった妻沼西中生を育む学校

発行　熊谷市立妻沼西中学校
電話　048(588)1361
FAX　048(589)0496
令和8年11月10日
第15号

自分たちがつくるスマホ利用ルール

校長　清水 利浩



校内のイチョウ　R8.11.6

「あなたの日常生活は、スマホに負けていませんか」。3年生との面接で聞いてみると、「負けているかもしれない」と答える生徒が少なくありませんでした。今、私たちは、スマホを介する生活時間が増え、ある意味「スマホの奴隷」になっているのかもしれません。この「スマホの奴隷」には、3つのコントロール・エラーが潜んでいます。

- 時間のコントロール・エラー…1時間で止めようと思っても、ついついそれ以上ハマっている。
- 量のコントロール・エラー…あと少しだけ楽しんでと思うが、結果的にめちゃくちゃハマっている。
- 状況のコントロール・エラー…家族や友達との約束やノルマをそっちのけでハマっている。

ネットのやりとりは、相手と実際に向き合っていないため、相手が嫌な気持ちを感じているかどうかがわかりにくいものです。そのため、時に、エスカレートしてしまい、様々なトラブルが起きてしまいます。こうしたネットトラブルの対策として、妻沼西中の生徒会本部役員と学級委員がアンバサダーとなり、各クラスで議論し、ルールを決めることに立ち上がっています。この試みは、8年前の令和元年に市内16校の代表生徒が検討し、「スマホ使い方宣言」を作成しました。皆さんの生活記録ノートにも掲載されています。この宣言の［前文］には、次のように書かれています。「スマートフォン・携帯電話はインターネットにつなぐことができる大変便利な道具です。しかし、一歩使い方を間違えると、自分や周りの人を傷つけます。私たちは、スマートフォン・携帯電話などを原則持ちません。もし、スマートフォン・携帯電話などを使う場合は、使い方やルールを家族と約束し、誰も傷つけることなく、賢く上手に使うことを誓います。」この8年前の試みと宣言は、月日が経つにつれ、風化しかけています。今ここに、この当時の「スマホ使い方宣言」を参考に、自分たちで気をつけようと対策を考えることは、大変意義のあることです。様々な考え方をもつ他人と生活するのは時に難しいものです。学校は、トラブルの解決に向けた、スキルを学ぶ場でもあります。スマホを介したネット利用が、生活に欠かせなくなった今、スマホを遠ざけたり、大人の監視を強めたりしても、根本的な解決にはなりません。自分たちが対策を考えるこの試みに、大いに期待します。